

# NEWSLETTER

## Physical History No.3



### 高畑ニュースより

- ・第2号に続いて、名古屋大学環境学研究科の溝口常俊さんが、今年の11月末から12月初めにかけて、北内田村（現在の松本市）の馬場家文書を調査された際に書かれたもう一つのエッセイを掲載します。



- ・この写真は、今回の調査の際に、馬場家で撮影されたそうです。何の写真だと思われませんか。

村山 聡

なお、無断転用はお断りします。



Physical History Research Project  
(PHRP)

Rocky Mountains, Colorado, USA,  
October 04, 2007

馬場家文書調査2 (高畑ニュース #357 (馬場家訪問) BB257 07I204 より)

名古屋大学大学院環境学研究科教授 溝口常俊

初めて馬場家を訪問したのは1999年8月17日～19日であった。その時の宗門人別改帳のマイクロフィルム撮影についてはTニュース(高畑ニュース)232でのべたとおりである。その後2000年4月、2002年3月、2003年8月に訪ね、今回が久々の5度目である。メールで連絡をしておいたのだが当主の馬場太郎氏がメニエルのご病気でチェックができてなく、突然の訪問になってしまった。にもかかわらず、奥様ともども丁寧に迎えいただき、貴重な資料をお見せくださった。馬場氏84歳、つい2日前間で寝込んでおられたとは思えないほどお元気で、話がはずみ、資料蔵に案内していただき、14箱のダンボールの資料群を確認(写真1)、そして昼食、そして歓談。馬場氏のライフヒストリー、じつに豊かだ。国の重要文化財指定の馬場家屋敷内の案内、午後は松本市中央図書館に行く予定だったが、馬場家だけで1日が終わってしまった。



写真1  
馬場家文書

資料の本格的撮影は暖かくなってから再訪しじっくり行うことにした。本ニュースではDr.馬場太郎の語りを紹介することにしよう。

帝国大学時代の医学部卒業。第二次大戦中、外科医研修生のころ、鶴舞公園の図書館の隣には山のように死体が積まれたという。アメリカ軍は三菱の工場があった大曾根と、名古屋市域の4隅に火炎弾をまず落とす。それを目印にして市域内に、高射砲弾が届かない高所からB29が焼夷弾を無差別に落とすという。日本の家屋は紙と木だから燃やせばよかったらしい。軍需施設狙いで爆撃するのは戦争だから仕方がない、しかし無差別爆弾は許せるものではない。広島、長崎の原子爆弾と同じではないか。大阪、名古屋、東京、その他の都市、合わせれば広島、長崎をしのぐ。日本も南京で同種の過ちをおかしているから、一方的にアメリカを責めるわけにはいかないのがつらい、と馬場氏は言う。名大教員時代奥さんと知り合い、本山に住んでいたことがある。下諏訪の父の病院を継ぐために助教職を辞す。

しばらくして、無医村地区の医療に尽力される。志摩半島では海女さんの診察もおこなっ

た。元気な人が多かった。魚介類は豊富に差し入れがあり、食べ物に困ることはなかった。あわびなんか大量にいただくものだから、その保存のために冷凍庫をかった。いまだに贈ってくださるんですよ、と奥さん。そのとき、タイミングよく、ピンポンとなり、イセエビのパックが届けられた。真珠の御木本翁は鳥羽から人力車にのって山を越え英虞湾にきて、海女さんにかたっぱしから手を出した。子孫たちがあらずって財産はなくなった。このほか東京在住寺に出会った吉川英治、井上靖らの歴史小説のでたらめさ、古くは木曾義仲、信長から最近では元県知事のヤッシーまで滅多切りで、それぞれが納得できるから不思議で聞き入っていた。

静岡県引佐郡ではDr.コトよろしく訪問診療して感謝され、いまだにみかんが送られてくるそうだ。そこでは家康がきらわれ今川義元がすかれていたらしい。歴史好きだから長篠のほうにもよく足を運んだという。そこに武田二十四将の1人で武田四天王でもある馬場美濃守信春(写真2)の墓があるからでもある。馬場太郎氏は馬場家16代当首なり。

太郎氏の姉さんがジョンソン大統領からサインをいただ

いている写真にまつわる話は深くはお聞きできなかったが、おじさんの称徳氏については、『天皇の密使』という小説になっているので近々Tニュースで述べることにしたい。



写真2  
武田二十四将の掛軸

さて、ここで重要文化財としての「馬場家住宅-やまふところの古屋敷」を写真紹介しておきたい。馬場家は、江戸時代には広大な田畑を持ち、農業を営み、藩主（諏訪高島藩）と親密な関係をもつ特別な地位にあった。「古屋敷」は屋号。

主屋：棟の正面に「雀おどし」と呼ばれる棟飾りを付けた、長野県西南部に分布する本棟造（ほんむねづくり）とよばれる民家の典型的な様式（写真3）。

隠居屋（非公開）：隠居後の居宅だが、穀物・塩・味噌の貯蔵庫。この二階に古文書箱が積まれている（写真1）。来年五月ここで資料閲覧・整理をさせていただきます。

中門：この門は藩主が馬場家を訪れるときのみ開けられ、藩主は正面玄関（写真4）からではなく、この門を通過して縁側に腰かけたものと伝えられている。



写真3  
馬場家全景（西南から）



写真4  
正門からみた本棟造りの主屋

部屋の中、今までみたことの無かった天井の傘立て（写真5）、居間のあかり取り（写真6）、すかし彫りの欄間（写真7）、廊下のカーブ天井（写真8）、鬼門の削除（写真9）。さすが重要文化財だけのことはある。



写真5  
天井の傘立て



写真6  
居間のあかり取り



写真7  
すかし彫りの欄間



写真8  
廊下のカーブ天井



写真9  
鬼門削除の台所（北東の鬼門の部分：障子のあるコーナーが屋内にされず台所に食い込んでいる）

12/2は曇り、12/3は晴天で、馬場家から西方の北アルプスが美しく（写真6）、アップした常念岳（写真7）はさらに美しかった。この日も話し込

み、馬場氏の船医としての世界一周旅行談は、セントローレンス川からシカゴまで入った話し、南ア連邦ケープタウンでの人種差別体験、セントヘレナでのナポレオン、ナミビアでの内紛遭遇に加え、数ヶ月間の船内での生々しい生活等々、どくとするマンボウ顔負けの冒険談であった（北杜夫氏は松本深志高校で馬場氏4年後輩）。地理研OBで現桐朋高校教諭SUM氏とともに聞き入り、録音なし筆記なしであったので、来年5月ころ再訪して世界地図を広げて語っていただきそれを抄録し、「ドクターTAROの世界一周船医日誌」を作り地理の教材にし藤先生に教えを請い、両資料館の絵図をじっくりと解釈すれば、ユニークな治山治水の地域環境史研究が出来ると思う。

---

編集後記

DECEMBER 12, 2007

このニュースレターの発行は、村山が行っております。現在行っている各種調査研究プロジェクトである「近世地域情報プロジェクト」（科学研究費基盤A「近世地域情報研究会」）、「溜池文化の比較研究」（香川大学特別奨励研究）ならびに「遠隔教育の比較研究」（文部科学省委託事業）の統合プロジェクトであるPHRP（= Physical History Research Project）に関する案内などを発信しています。

今回は、冒頭にも書きましたように、溝口さんが長く続けられている高畑ニュース再録の第2号です。

連絡先：村山 聡

香川県高松市幸町1-1  
香川大学教育学部

tel/fax: 087-832-1571(office)

Email:

[muras@ed.kagawa-u.ac.jp](mailto:muras@ed.kagawa-u.ac.jp)

---